

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
理念に基づく運営	<u>11</u>
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
安心と信頼に向けた関係づくりと支援	<u>2</u>
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	<u>6</u>
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	<u>11</u>
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	<u>30</u>

事業所番号	2371301090
法人名	株式会社ライフケアみおつくし
事業所名	グループホーム 安楽樹
訪問調査日	平成20年11月20日
評価確定日	平成20年12月15日
評価機関名	福祉総合調査研究機関 株式会社 ヤトウ

項目番号について
 外部評価は30項目です。
 「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。
 「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。
 番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

記入方法
[取り組みの事実]
 ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。
[取り組みを期待したい項目]
 確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に をつけています。
[取り組みを期待したい内容]
 「取り組みを期待したい項目」で をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

用語の説明
 家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
 家族 = 家族に限定しています。
 運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。
 職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みません。
 チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年12月16日

【評価実施概要】

事業所番号	2371301090
法人名	株式会社ライフケアみおつくし
事業所名	グループホーム 安楽樹
所在地	名古屋市守山区笹ヶ根一丁目101番地 (電話) 052-739-3722

評価機関名	福祉総合調査研究機関 株式会社 ヤトウ		
所在地	名古屋市中区金山一丁目8番20号 シャローナビル7階		
訪問調査日	平成20年11月20日	評価確定日	平成20年12月15日

【情報提供票より】(平成20年10月27日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成) 17年4月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	12 人	常勤	12人, 非常勤 人, 常勤換算 人

(2) 建物概要

建物構造	木造	造り
	1階建ての	1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	35,000 円	その他の経費(月額)	25,000 円	
敷金	有(円)	無		
保証金の有無(入居一時金含む)	有(100,000 円)	有りの場合償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		1,100 円	

(4) 利用者の概要(平成20年10月27日現在)

利用者人数	18 名	男性	7 名	女性	11 名	
要介護1	4名	要介護2	6名			
要介護3	4名	要介護4	3名			
要介護5	1名	要支援2	0名			
年齢	平均	78 歳	最低	66 歳	最高	90 歳
協力医療機関名	山田歯科医院・種田クリニック・旭労災病院					

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

名古屋市北東部丘陵地帯の頂上に位置し、盆地を挟んだ北部には春日井市の学園都市が明瞭に見渡せる。訪問時には寒風のためか空気が澄み渡り豊かな里山に包まれたホームは色づいた葉を躍らせていた。同地はこの3年ほどの間に急速に発展した市街地であり、自治会の歴史も浅くその人口構成も若い世代がほとんどである。そのため自治会の防災の取り組みもなく、ホームの提言によって防災計画策定に乗り出すなどホームが地域の起動力・提言者となり重要な地域資源となっている。ホームの周囲の森はこれから開発が予定され、来年1月にはすでに開発された部分に小規模多機能型施設もオープンし、通所型認知症介護と老人ホームも併設される。守山区内に系列のホームが3軒あり開設時にはそれらホームから経験を積んだ職員が異動してきて円滑な立ち上げに努力している。

【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	昨年度は理念の地域密着性についておよび、同業者との交流に管理職員のみが参加していたこと、地域合同での防災訓練が取り組みを期待したい事項とされた。 今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
重点項目	理念を地域密着型に改め、同業者との交流には一般職員も参加させるようになった。また、地域との災害訓練は運営推進会議で相談したところ自治会でもその必要を認め、自治会が動き出すきっかけとなった。
	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
重点項目	自治会長(前・現)、民生児童委員長、医師、家族、社長、介護支援専門員、管理者をメンバーとし、隔月で開催されている。毎回詳細にわたりホームの運営状況を報告し、会員からは質問され、その期間の評価を受けている。自治会自体が新しく柔軟性に富み、ホームからの地域合同の災害訓練の要請に対し、災害計画が必要であると現在策定中である。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
重点項目	外部評価での家族アンケートを運営に役立てている。管理者が苦情、相談窓口となっているため、家族来訪時など、一元的に、積極的に近況の報告、要望の聴取に努めている。家族への手紙を積極的に入居者に勤めており、家族から返事が来ると何度も読み返したり、大事に保管して、不穏になった時でもそれを読み返して落ち着く人もある。
	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目	町内会に加入し、地域のお年寄りが現役で活躍する長寿会・町内清掃にも参加している。近所の保育園の運動会が近づくと、リハーサル会場の公園まで出かけ応援している。長寿会メンバーの方からは農作物のお裾分けを頂いたりしている。ホームの防災訓練の呼びかけがきっかけとなり自治会で防災計画が動き出すなど、ホームは地域の起動力・提言者として貢献している。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	昨年度の評価を受け、「やすらぎを理念に、地域とのふれあいを大切に、ごく普通の生活を、人間の尊厳を尊重しながら自尊心を高め、一日の生活を感謝して心穏やかに、安心して毎日を暮らす」と地域密着型理念に改めた。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	新しい理念はリビング中央と玄関に墨書され誰もが見やすく掲示されている。月1回のカンファレンスで唱和し、確認し合っている。訪問時の聴取でも職員に浸透していることが確認できた。理念実現のために入居者の自律を促し極力手出しをしない介護に努めている。地域への浸透につき職員一同で知恵を絞りアイデアを出し合っている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加入し、地域のお年寄りが現役で活躍する長寿会・町内清掃にも参加している。近所の保育園の運動会が近づく、リハール会場の公園まで出かけ応援している。長寿会メンバーの方からは農作物のお裾分けを頂いたりしている。ホームの防災訓練の呼びかけがきっかけとなり自治会で防災計画が動き出すなど、ホームは地域の起動力・提言者として貢献している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者は外部評価について昨年度の結果や、今年度の予定も報告し、職員とともに取り組みたい内容をカンファレンスにかけ選択し実行してきた。職員に対しては、自己の介護を見直す好機であることを伝えた。職員の中には自己評価が文章で答えることや、設問数が多いことに戸惑いの声もあった。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>自治会長（前・現）、民生児童委員長、医師、家族、社長、介護支援専門員、管理者をメンバーとし、隔月で開催されている。毎回詳細にわたりホームの運営状況を報告し、会員からは質問され、その期間の評価を受けている。自治会自体が新しく柔軟性に富み、ホームからの地域合同の災害訓練の要請に対し、災害計画が必要であると現在策定中である。</p>		
6	9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>入居者の要介護申請の支援・代行、生活保護担当者との定期的連絡、要請、困難時の相談等で役所を訪問している。市のグループホーム実践者、管理者、リーダー研修にはそれぞれ該当職員を参加させている。</p>		<p>行政に対する報告だけでなく、行政の有する情報の入手、利用相談などを通じ、さらに太いパイプを築かれ、ホームの持てる有用な地域資源としての活力をさらに地域に還元できるよう行政との協働に取り組まれるよう期待したい。</p>
4. 理念を実践するための体制					
7	14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>職員の手書きによる「安楽樹通信」でカンファレンスの内容、最近の入居者の状況を、ケアプランを同封し確認、押印のうえ返送してもらっている。家族来訪時には本人と家族が水入らずで話せる環境を整えている。身寄りのない入居者の気持ちを考えホーム行事で大々的に家族を招待できないのが現下の悩みでもある。</p>		
8	15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>外部評価での家族アンケートを運営に役立てている。管理者が苦情、相談窓口となっているため、家族来訪時など、一元的に、積極的に近況の報告、要望の聴取に努めている。家族への手紙を積極的に入居者に勧めており、家族から返事が来ると何度も読み返したり、大事に保管して、不穏になった時でもそれを読み返して落ち着く人もある。</p>		
9	18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>基本的に異動はないが今回、開設から3年が経過しホームの基盤も確立できたため、職員に外の空気を吸わせ、よりレベルアップさせるためにあえて主任クラスの職員を系列ホームとの間で異動させた。ユニット間での異動もないが、パート職員の中には両ユニットを兼務する職員もいる。平屋建てであるため入居者は容易にユニット間を異動しており敢えてユニット異動を考慮する必要もない。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員は2カ月に1度くらいは研修に出かけ、参加者はホームに戻って勉強会を開催し、職員間での情報共有を図っている。会社が派遣する場合は有給扱いだが、講習料は「スキルはすべて個人に帰属する」ため個人負担としている。行政などからの講習会のお知らせは積極的に職員に開示し受講を勧めている。資格取得に対しては資格手当が支給される。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	名古屋介護サービス連絡事業者研究会（名介研）のグループホーム分科会に加盟し、他ホームの職員と2～3カ月に1回勉強、交流会を開催している。昨年の評価を受け、今年から一般職員も参加するようになった。グループワークでの困難事例では「皆同じようなことを悩んでいるんだ」と共感することができ、展望が明るくなったと管理者は感じている。		
・安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	見学会はいつでも可能で、空き部屋があれば体験宿泊も可能である。認知症対応型通所介護の指定も受けており、以前はお試しでデイサービスを利用する人もいた。来年1月には敷地内に新たにデイサービスを含めた小規模多機能型施設がオープンするため、そちらを利用しながら環境に慣れてもらい、ホーム入居へと移行することも可能である。入居前には管理者が必ず訪問し、その居住環境を確認し、病院からの入居者は必ず看護師、ケースワーカーから情報収集している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	掃除、洗濯、調理の下ごしらえ、食器拭きなど、できることは入居者に任せている。掃除は自室だけでなく、リビングや他の居室まで自ら進んで行く人がいる。食材の買い出しでは、野菜、魚介類の目利きに力を発揮し教わることが多い。手打ちうどんを皆で力を合わせて楽しむことがある。疲れた時、沈んだ時は入居者がすぐに気づいて「私がやるから、そこに座っていいよ」との言葉に癒され、職員は元気をもらっている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>独居のため会話する機会を失い、ホームへ入居するケースも多く、家族からの聴取もできず、じっくり時間をかけ心をほぐしながら聞きだし、職員の情報を総合して計画を練り直すことも多い。「管理者」の肩書に身構えてしまう人も、なじみの職員には気楽に話してくれ、計画見直しに役立っている。実現可能なら家族と相談して支援するが、亡くなったご主人に逢いたいとの切望には職員も心が痛む。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>毎日の介護記録の中で、目標を確認してモニタリングしている。月1回のカンファレンスでは、職員全員が事前に検証した項目を持ち寄り、サービス担当者会議で見直し介護計画を作成している。職員全員が日々の気づきを大切に、入居者の変化も随時話し合い計画に反映している。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>定期的な見直しは長期目標6カ月、短期目標3カ月で行っている。見直し前にも変化がある場合は、月1回サービス担当者会議を行い現状に即した計画を作成している。カンファレンス以前に対応できない変化が生じた場合は、その都度職員が話し合い、本人や家族と相談し計画を見直している。</p>		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>週に1回の主治医の往診、看護師の訪問がある。口腔ケアは職員が行っており、歯の痛みがある場合は歯科への通院介助をしている。また、協力医療機関や総合病院等への通院介助や入院時や退院に向けての支援も行っている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>契約時に協力医療機関の利用の同意を入居者、家族から得ている。家族には協力医の往診の様子や、他の病院の受診の結果など、やすらぎ通信にて報告している。また、入居者の受診の情報は申し送りノートに記入して職員で共有している。</p>		
19	47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>契約時に重度化した場合の指針があり家族の理解を得ている。重度化した場合ホームの中で過ごせるよう、できる限り柔軟に対応していく方針をとっている。主治医の協力や医療機関との連携をとり、対応、アドバイスを受けている。職員も前向きな意見や協議を重ねて、できる限り支援するという方向に進んでいる。</p>		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>職員には契約時において守秘義務について同意を取っている。また、外部研修を利用して入居者への接遇などの研修も受けている。入居者は常に人生の先輩であるという認識のもと、接し方、話し方、言葉遣いにも気をつけプライバシーを傷つけないよう努力している。記録したものや書類などは扉のついた中に保管している。</p>		
21	52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>天気が良ければ毎日のように、車いすの人も連れて散歩に出かけ、次週出かける「昭和村」のことで会話が花が咲いていた。食材の買い出しには入居者も同行し、家族との旅行、帰宅など楽しむ人も多い。豊かな里山に包まれ、押し花を趣味とする人は職員とともに季節の花を摘んだり、季節には連日のように筍を採ったり、雉をはじめとする野鳥の声を楽しむ人もいる。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者一人ひとりができることを把握し、野菜の皮むきや準備など職員と一緒に進めている。湯のみや箸等は個人のものを使用し、食べ終わった後は食器を片付けている。食事は全体に薄味になっており、その人に応じて小さくしたり、くだいたりして美味しくいただけるよう支援している。職員も一人は見守り、他の職員は入居者と一緒に食べている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は週2~3回となっているが、入りたいと希望する入居者は毎日入浴してもらっている。一番風呂は順番を決めているが、その後も入居者が気持ちよく入れるよう支援している。夏場はシャワー浴を取り入れ入浴できる機会を増やしている。入浴時も個人に応じて職員がつき見守っている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食事の準備や後片付け、洗濯物のたたみなど無理のない程度に手伝ってもらっている。掃除の好きな入居者がいて自分の部屋はもちろん、ホールや他の部屋まできれいに掃除してくれる。絵の好きな入居者とは一緒に画材を買に行ったり、ホームの花壇作りや裏山の筍掘りなど、いろいろな場面に応じて入居者の活力を引き出せるよう支援している。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩は天気の良い日には全員で出かけている。ホームの近くに公園があり、運動会の季節になると保育園児が練習をしているので入居者も一緒に参加させてもらっている。また、スーパーへの買出しの時も、これが安いとか、この野菜はいいとか教えてくれる。日帰り旅行や食事会など入居者全員で参加できるよう支援している。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員は鍵をかけない暮らしの大切さを理解している。以前は頻繁に外に出る人がいたり、家族からの強い要望で鍵をかけていた。施錠は拘束との認識のもと、事故防止のため鍵をかけているが、無条件に鍵をかけているのではなく、どのようにすれば外せるかを常に職員全員で話し合い改善を考えている。入居者の安全を考え問題解決に努力している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>	<p>消防署の協力のもと、年2回の防災訓練をしている。緊急時にはすぐに消防署に通報できる装置も付き、避難経路もA棟B棟それぞれに対応手順も用意されている。業者による消火器の点検も年2回行われている。備品も食料、紙おむつ、ラップ、紙食器、ラジオ等保管している。</p>		<p>自治会自体も新しく防火災害対策はこれからということもあり、ホームの防災訓練の呼びかけがきっかけとなり、自治会で防災計画が動き出そうとしている。ホームは地域の起動力、提言者として大きな役割を担い、今後地域とともに発展していくことに期待される。</p>
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>食事の献立は本を参考に職員が立てている。1日の目安は1,300~1,500カロリー、水分量も最低1.5Lは摂取してもらうため工夫をしている。食事の制限が必要な人もあり、一人ひとりの状態に合わせて、量や塩分などを配慮して配膳されている。水分補給も食事に汁物をつけたり、コップを大きくしたりして確保している。</p>		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>廊下の壁には入居者の絵や、福祉まつり、駐車場でのおしゃんちゃん焼きパーティーの楽しい写真が飾られている。また、ホールからは外の景色やきれいな草花も見られ季節感を楽しんでいる。廊下には長椅子が置いてあり、入居者同士過ごせるよう工夫している。浴室の足拭きマットや洗面所の手拭き等は個人の物を使用し清潔が保たれ、気持ちよく過ごすことができる。</p>		
30	83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>居室は入居者が以前使用していたタンスや家具が持ち込まれ、入居者が作った作品やベッドの写真などを飾り自室作りをしている。ベッドからの転倒予防のためベッドの足を外して低くするなど工夫している。</p>		

は、重点項目。

WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。